

2023年4月27日～5月1日

長野県北部震災被災地(栄村)における 文化財保全活動(第84回)報告

[2023年6月14日版]



またこらっせでの楽しく美味しい活動が帰ってきた！

地域史料保全有志の会

==== 目 次 ====

はじめに	2
1. 第84回活動の基本データ	3
■日程	
■参加者	
■活動内容	
2. 考古班の活動	3
■概要	
■調査日：4月27日	
■調査日：4月28日	
■新たに発見された「旧東部小学校保管資料」	
3. 文献班の活動	4
■廣瀬博明家文書の整理と目録取り	
4. 民具班の活動	6
■4月29日	
■4月28日	
■4月30日	
5. 秋山郷見学	8
6. 復活！ワンコイン昼食！	8
7. 会計報告(大澤佳寿子・白水智)	9

はじめに

新型コロナウイルス COVID-19が蔓延して4年目。2019年秋の活動以来、地域史料保全有志の会では、広く皆様に呼びかけて参加者を募る形での活動は控えてきたが、ようやく感染状況が落ち着いてきた今年度から、再び栄村での文化財保全活動を再開させることになった。

2020年には感染症の正体が明らかでなく、どのような予防措置をとればいいのかも手探りの状況で、日本中のあらゆるイベントが休止に追い込まれた。当会も同様に、ほぼ完全に活動は止まってしまった。ただ、2021年には、活動の機運が完全に絶えないように、方法を模索しながら少しずつ活動を再開させた。とはいっても、可能だったのは年度末の報告会のみで、それもオンラインを併用しながらのささやかな活動のみであった。翌2022年に入ると、3月に報告会をオンライン併用で開催したほか、ごく内輪の少人数で活動再開に向けての準備作業を行うようになった。そして2022年度末に当たる今年3月にも報告会を開催し、今回は久しぶりに会場参加も制限なしに歓迎という形で行うことができた。そして年度が明けた2023年度から本格的な活動再開となったわけである。

とはいえ、2020年以来丸3年のブランクは長いものであったため、活動を再開して果たして以前のように参加してくださる方がいらっしゃるか、不安もあった。しかし、結果的には杞憂であった。今まで何度も参加してくれていたメンバー以外に、新たに初めて参加して下さった方も加わって、村民の方々とともに楽しい活動となった。

「保全の会らしさ」も復活し、以前と同様に差し入れていただいたたくさんの地元食材を使い、自炊で作ったワンコインランチ(500円ではなく100円!)も再開した。盛り付けはもちろん以前のように村内から保全した漆器に。参加者の幾人もがウキウキと料理の腕を振るい、本当に美味しい昼食を毎日楽しんだ。これが保全の会の活動!と思われる充実した内容となった。また、休憩時間には、作業拠点となっている歴史文化館「こらっせ」の裏山で山菜採りもし、ツクシ・ワラビ・アサツキ・トリアシショウマ・フキノトウ・木の芽(ミツバアケビの新芽)なども手に入れてお昼の食材にも使った。

今回は初めてや久しぶりの参加者ばかりであったため、2016年の「こらっせ」開館時に上映されたこせっせ誕生物語のライドショーを改めてみんなで観ることになった。このBGM付きのライドショーは、現在こらっせ管理人を務めている広瀬幸利さんが制作されたものであるが、広瀬さんご自身が「こらっせ」の前身である東部小学校志久見分校の卒業生でもある。半世紀ほど前の懐かしい思い出の写真を交えながら、小学校が廃校となり、食品工場へ、さらに救出文化財の仮保管庫へ、そして歴史文化館へと生まれ変わっていく様子を、村民の視点から見事に活写してくださっている。今回改めて上映された映像を観て、参加者の多くが胸に熱いものがこみ上げてくる思いを抱いた。私(白水)も今までになく目頭が熱くなった。

そこには新型コロナウイルスの蔓延による休止がようやく明け、活動が再開できた感慨もあった。今後とも村の皆さんと力を合わせながら、志ある参加者を得て、救出資史料の整理と活用に邁進していきたいと再び強く思うようになった。

なお、広く呼びかけは行わなかったが、文献班・民具班が活動した4月28



広瀬幸利さん制作のこらっせ誕生物語を再び観て目頭が熱くなった

日に先立つ前日から1泊2日で考古班も活動を行っていたので、今回の報告書には活動期間4月27日～5月1日として併せて内容を掲載した。

1. 第84回活動の基本データ

■日 程：2023年4月27日(木)～5月1日(月)の5日間

■参加者：高橋健樹・石野律子・白水智・藤田明良・松浦瑛士・角和裕子・鈴木努・近藤夏織子・高野宏峰・中根聖可・榎美香・常田一彦・廣江咲奈・荒井美智江・門脇洋子・伊藤早穂子・真嶋朋子・大関枝美子・本間美麻

【村から】樋口正幸・廣瀬幸利・博多芳明・鈴木早苗・鈴木剛・飯嶋広恵

【差し入れ・支援等】吉楽旅館・樋口正幸・上倉和美・関澤義人・その他たくさんの皆さん

■活動内容：考古班が高橋健樹さん1人で初日から2日目まで活動し、2日目からは文献班と民具班が活動を行った。

[4月27日(木)]

【考古班】栄村入り。「旧東部小学校保管資料」の確認と図化作業準備。

※吉楽旅館泊

[4月28日(金)]

【考古班】「旧東部小学校保管資料」の図化作業。

【文献班】午後、栄村入り。廣瀬博明家文書目録取りの準備を行う。

【民具班】今後の活動に関する話し合い。

※吉楽旅館泊

[4月29日(土)]

【文献班】廣瀬博明家文書の整理と目録取り。

【民具班】新参加者への展示解説、こらっせと旧東部保育園間で一部民具の移動。

※吉楽旅館泊

[4月30日(日)]

【文献班】午廣瀬博明家文書の整理と目録取り。

【民具班】今後の調査方法について話し合い。

※出口屋泊

[5月1日(月)]

【文献班】廣瀬博明家文書の採取目録の整理。

2. 考古班の活動

■概要

「旧東部小学校保管資料」の報告書作成に向けての作業を始めた。「栄村誌」編さん作業中に、新たに「旧東部小学校保管資料」の段ボールが役場倉庫より2箱確認されたことから、この資料の保管・分類作業絵を終了させることを優先した（この作業は、2022年10月にある程度作業を進めている）。

今回の作業は、以前にある程度の基本的な分類作業などは完了していたので、次の段階の報告書掲載用の資料の図化作業に取り掛かった。今後は図化作業を進めるとともに、資料の時期分類等を並行して進めることになる。

■調査日：4月27日

*参加者：考古班 高橋健樹

*作業等：「旧東部小学校保管資料」の再確認を行い、作業方針を決定。図化資料の分類は済ませていたつもりであったが、ひんご遺跡資料などの経験を活かし、図化作業を進めながら再度分類作業を進めることとした。

■調査日：4月28日

*参加者：考古班 高橋健樹

*作業等：図化作業を進めながら再度分類作業を進める。

■新たに発見された「旧東部小学校保管資料」



箱27・上段



箱27・中段(上部)



箱27・中段(下部)



箱27・下段

3. 文献班の活動

■廣瀬博明家文書の整理と目録取り

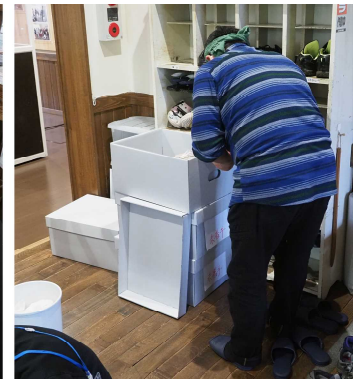
かなり間は空いてしまったが、以前から続けている廣瀬博明家文書の整理・目録取りがまだ途中であるため、今回も作業を継続した。また、こらっせ2階古文書収蔵室の棚最上段に置かれている茶ダンボール箱史料の入れ替え整理も、続きを行った。なお、この入れ替え作業をしている際、一部の古文書に白いカビがわずかに発生しているのを確認した。そこで、無水エタノールを精製水で希釈したものを利用して、カビの箇所を消毒する作業を行った。



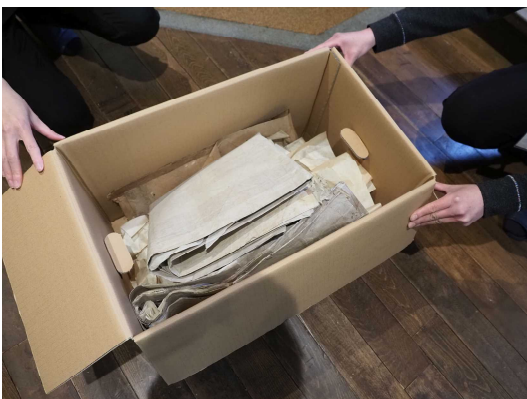
わずかに表面にカビの発生している史料が見つかり、アルコールで応急処置を行った



4年ぶりにこの目録取りの風景が戻ってきたのは、本当に嬉しかった



古文書の入れ替え作業。クリーニングをしながら古文書専用箱への移動を行った



「廣瀬⑨」の収納状況と新聞紙の上に広げた内容物

整理の様子



古文書の入れ替えやクリーニングをした茶ダンボール箱

今回の作業の進捗は次のとおりである。

● 廣瀬博明家文書の目録取り

土蔵]

1階あ-キ-c-1～19止

1階あ-キ-a-1～14止

1階あ-キ-b-1～11止

1階あ-キ-d-1～70止

2階ア-1～3-7 (途中)

2階キ-b-②-166～177止 → これにてキ-bは終了

● 廣瀬博明家文書の整理(茶ダンボール箱史料の入れ替え整理など)

「廣瀬⑥」 → もんじょ箱2箱に移動

「廣瀬⑦」 → もんじょ箱1箱に移動

「廣瀬⑧」 → もんじょ箱1箱に移動

「廣瀬⑨」 → クリーニングのみで入れ替えはせず

4. 民具班の活動

久しぶりの民具班活動再開。今回は、一部展示替えを目指して活動することにし、そのための準備を始めた。2016年夏のこらっせ開館前に展示候補として運び込んだ民具類が民具収蔵室に入れたままになっていたの、旧東部保育園に戻し、代わりに手すき和紙用具をこらっせへ移動させた。和紙道具の観察記録調査をしつつ、次にやるべきことが少しずつ見出せたと思う。

■ 4月28日

久しぶりの再会であったので、お互いの近況報告とお喋りが尽きなかった。明日から参加者が増えるので、食材買い出し準備。

今後の民具班活動をどのように行うか案を出し合った。栄村では、昭和40年代まで農閑期に雪を利用して内山紙といわれる障子紙を生産していた家が数多くあったが、現在手漉き和紙を行っている家はない。当時は手漉き和紙の作業が当たり前のように生活に溶け込んでいたためか、詳しい調査報告書がまとめられていないので、このままでは村の記憶から消え去ってしまうと思われた。そこで「雪のくらしと民具」という軸になるテーマは変えずに、開館当時の民具展示で予告済みでもあった「栄村の手漉き和紙」をテーマに絞って活動していくことにした。

■ 4月29日

次々と新しい参加メンバーが来館されたので、館内のご案内と民具展示解説を実施。昼食準備の手伝い。

午後は晴れたので、2階民具收藏室から藁製民具・木鉢や背負子などの展示で使用しなかった民具を軽トラ2台に積み込み、旧東部保育園の民具收藏庫へ戻した。旧東部保育園(民具收藏庫)では換気と同時に見学会も行った。空になった軽トラで、次回企画している手漉き和紙関連の道具19点をこらっせへ移動させた。ついでにこらっせ2階民具收藏庫前に置いてあった廣瀬博明家の書物入れも移動させた。(資料番号あーエ40、虫害あり、内容物は古文書班にお渡し完了)

私は1年ぶりに保育園に入ったが、活動休止中に運び込まれた物や、寄贈または寄託民具も増え、



民具の移動(撮影：石野)



書物入れ(撮影：石野)

足の踏み場が無くなっていた。また虫の死骸も多数見られたので、次回以降には各部屋や階段の清掃と整理とゴミ出しが必要と思われた。

■ 4月30日

栄村の和紙道具について、2012年平滝で調査した手漉き和紙の家の資料や和紙関連の本を見ながら、今後どのような方法で調査し、情報収集するか意見を出し合った。昨日移動させた和紙の道具調査で、観察記録である民具情報カードの作成と写真撮影を行ったが全て終わらなかったのも、次回もその続きを行う。

今後は飯山などの和紙関連施設の見学をして道具の使い方を知り、和紙の工程の中で必要な道具がレスキューした民具だけで補えるか、揃っているかどうか今後確認する必要があるのも次回以降の活動に組み込む予定である。



和紙の道具調査(撮影：石野)

5. 秋山郷見学

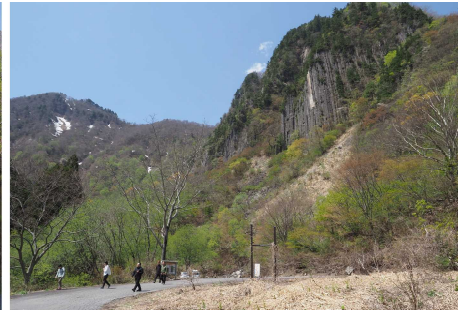
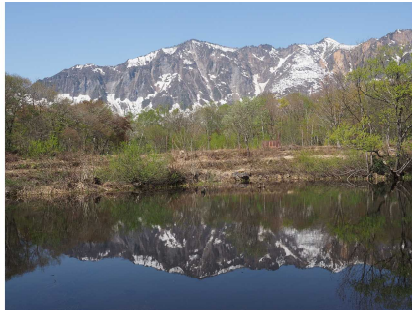
栄村を特徴づける地域に秋山郷がある。栄村は標高250^m前後の千曲川沿いから標高2100^mを超える高山までを含んでおり、面積も広い。役場やこらっせがある標高の低い地域とは別に、秘境の山村地帯として著名な秋山(観光地名称としては「秋山郷」)には独特な価値がある。今回4年ぶりに本格的な活動を再開し、初めて栄村を訪れた方も複数いたことから、久しぶりに秋山郷に1泊して、栄村の誇るもう一つの文化を見学することにした。

3日の活動終了後、車3台で秋山郷に向かった。この日は夕方になっての秋山郷着だったので、名物の「赤い温泉」の湧き出る楽養館(源泉掛け流し)で作業の疲れを取ったあと、民宿の「出口屋」さんに投宿した。夕食には、山菜や熊肉など秋山ならではの食材を使った魅力溢れる器が並び、一同その美味しさを堪能した。出口屋さんのご主人は伝統を受け継ぐ猟師としても活躍しており、夕食後には秋山の生活文化に関する興味深いお話をうかがえたほか、熊が獲れたときに里へ曳いてくる際に唄われたという「熊曳き歌」も聴かせていただくなど、中身の濃い一晩となった。



翌日は鳥甲山の絶景が眺められるポイントを2ヶ所回り、秋山郷の生活に関する展示がある「とねんぼ」を見学したほか、名所として知られる布岩を直下まで行って見学した。天候に恵まれ、絶好の見学日和であった。

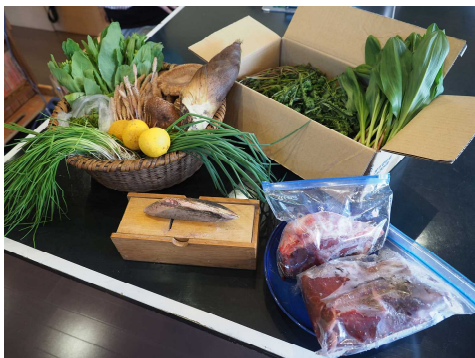
秋山郷の方から名物のギョウジャニンニクなどをいただいたので、こらっせに戻ってからの昼食では、それらの食材を使った料理も作って参加者で舌鼓を打った。



6. 復活！ワンコイン昼食！

こらっせでの文化財保全活動では、村の方からお米や山菜・自家製野菜などたくさんの差し入れをいただくことが多い。そして、作業に参加してくださった皆さんには村の美味しいものをたくさん食べていただくという趣旨で、それらの食材や地元の農家直売所で買った食材で自炊料理を作り、毎回100円のワンコイン昼食を提供するのが恒例になっている。もちろん料理も参加者の手作りである。今回は、作業の休憩時間にこらっせの裏山などで自ら山菜採りも行い、フキノトウ・ワラビ・アケビの新芽・ツクシなども手に入れた。村の皆さんからは、お米をはじめ、猪肉・鹿肉・コゴミ・ギョウジャニンニク・菜花・椎茸など、大量の食材をいただいた。それらは連日の自炊時にたくさんのご馳走に化けた。また、手作りの郷土料理のおかずもたくさん差し入れていただいた。村の皆さんにこの活動が支えられていることを実感する瞬間である。写真のような笑顔が戻ってきたことはとても嬉し

いことだった。



7. 会計報告 (大澤佳寿子・白水智)

[2023年4月1日～2022年5月31日までの支出]

< 宿泊・厚生関係 >

○ 宿泊費補助 (5名・7泊分) 21,000円

○ 入浴券 (回数券・1綴り) 5,000円

計 26,000円

[2023年4月1日～2022年5月31日までの収入]

○ 歴史資料展示調査補助金 (栄村教委) 200,000円

○ 寄付金 (加藤良子様 4月27日) 9,000円

計 209,000円

[残 額] 1,444,190円

※本報告書中、とくに執筆者の記載がない部分や撮影者注記のない写真は、白水が担当・提供した。